

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	沖縄工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部等 共通 科目	専門 科目	合計		
	機械システム工学科			7	3	10	7	
	情報通信システム工学科					7	7	
	メディア情報工学科					7	7	
	生物資源工学科					7	7	
	創造システム工学専攻 機械システム工学コース			8		8	7	
	創造システム工学専攻 電子通信システム工学コース					8	7	
	創造システム工学専攻 情報工学コース					8	7	
	創造システム工学専攻 生物資源工学コース					8	7	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicDepartments?school_id=51

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	沖縄工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://www.kosen-k.go.jp/about/release/index.html#yakuinmeibo>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	熊本大学長	平成28年4月1日～ 令和6年3月31日	理事長
常勤	東京工業大学 理事・副学長	平成30年4月1日～ 令和2年3月31日	研究・産学連携 情報システム
非常勤	東京大学教授	平成26年4月1日～ 令和2年3月31日	男女共同参画推進
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	沖縄工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。 (授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 授業計画書は、授業担当者が前年度末までに作成あるいは更新することとしている。授業計画書の作成に当たっては、各授業の到達目標を明記するとともに、ループリックによる各項目の到達レベルを詳細に記入することとしている。また、授業内容や授業の進め方を記載し、他の科目との関連等を記載することで、学生が授業概要を事前に把握し、科目間の関連を認識できるようにしている。 授業計画については、週ごとの授業内容・方法を記載するとともに、週ごとの到達目標を明記することで、学生の自学自習を促し、学生自身による到達度の確認を実施できるようにしている。また、評価の割合を試験、レポートなどの項目ごとに示している。 授業計画書は、前年度末までに、Web上で公表するとともに、授業の第一週に冒頭において、印刷した授業計画書を配布し、周知している。	
授業計画書の公表方法	https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicDepartments?school_id=51
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。 (授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 各授業の単位は、授業科目における定期試験、中間試験、小テスト、レポート等の成績を合わせて算出された学年末の成績である評価点が100点満点で60点以上である場合にその取得が認定されることになっている。各授業における評価点の算出方法は、各授業担当者が授業内容等を考慮して決定し、授業計画書に明記されている。 本校における基本的な評価点の算出方法は授業形態により異なり、講義形式の授業科目では、定期試験、中間試験、レポート等を合わせて評価点を算出し、実験・実習形式の授業科目では、レポート、課題作成等を合わせて評価点を算出している場合が多い。卒業研究については、学科ごとに差異はあるが、基本的に、口頭発表内容、卒業論文の完成度並びに普段の取り組み状況を合わせて評価点を算出し、その算出方法については、授業計画書に明記され、また、学生に周知している。 この評価点の算出方法は、授業第一週の冒頭で授業計画書を用いて学生に周知され、以降、理由を問わず、変更されないこととしている。	

3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。 (客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) ○客観的な指標の設定 学年成績は、シラバスに基づき、その年度における各学期の試験の成績、提出物等を総合して100点法により評価しており、その年度に受講した全科目の成績評価結果及び各科目の単位数の総和に基づき、重み付け平均点を算出している。 ○成績の分布状況の把握 上記指標の重み付け平均点により、学級、学科毎に成績分布状況の把握を行っている。 また、重み付け平均点の上位から学級、学科毎に順位付けを行っている。(100点満点で点数化)	
客観的な指標の 算出方法の公表方法	http://www.okinawa- ct.ac.jp/detail.jsp?id=74696&menuid=14965&funcid=1
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) ディプロマポリシー 本科では、以下のような能力を身に付け、所定の単位を修得した学生に対し卒業を認定する。 (1)理工系の基礎的な学力をもとに、各専門分野の基礎的な知識と技術及びそれらを応用する実践力を身に付けている。 (2)コミュニケーション力を身に付けており、他者と協調して課題解決に取り組むことができる能力を身に付けている。 (3)技術者としての倫理観を持ち、専門知識を社会のために役立てる能力を身に付けている。 (4)継続的に自己研鑽できる能力を身に付けている。 学則 第4章 学年の課程の修了及び卒業の認定 (学年の課程の修了及び卒業の認定) 第14条 学年の課程の修了及び卒業の認定は、教員会議の議を経て校長がこれを行う。 2 学年の課程の修了及び卒業の認定にあたっては、授業科目及び特別活動（第1学年から第3学年のみ）の履修状況並びに次の各号に掲げる条件をすべて満たしていることを基準とする。ただし、校長が特に認めた海外留学生として派遣されるため年度をまたがって休学する学生の学年の課程及び卒業の認定にあたっては、休学期間以外の当該年度と前年度の授業日数を合算して年間総授業日数を算出するものとする。 (1)学則別表第1及び別表第2に定める科目を履修していること。 (2)学則に定める当該学年における修得すべき科目の単位を全て修得していること。 (3)出席日数が年間総授業日数の3分の2以上であること。ただし、第4学年及び第5学年において原級留置となった学生のうち、それぞれの学年の原級留置決定年度において修得科目のあった者を除く。 (4)特別活動が「合格」であること。 3 前項各号の条件を満たさない者で特別な理由があると校長が認めた者については、教員会議において審議した上で、校長が総合的に判定する。 4 卒業に必要な修得単位数は、学則別表第3に記した単位数とする。	
卒業の認定に関する 方針の公表方法	http://www.okinawa-ct.ac.jp/detail.jsp?id=74195&menuid=14890&funcid=1 http://www.okinawa-ct.ac.jp/detail.jsp?id=73484&menuid=14394&funcid=1 (学業成績の評価並びに学年の課程の修了及び卒業の認定に関する規則)

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	沖縄工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/documents/zaimusyohyoH29.pdf
収支計算書又は損益計算書	https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/documents/zaimusyohyoH29.pdf
財産目録	
事業報告書	https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/information/H29jigyohokokusho1.pdf
監事による監査報告(書)	https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/information/kanjiikenH30.pdf

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:独立行政法人国立高等専門学校機構の年度計画 対象年度:平成31年度(2019年度))
公表方法: https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/information/nendo-h31.pdf
中長期計画(名称:独立行政法人国立高等専門学校機構の中期計画 対象年度:平成31年(2019年)4月1日から令和6年(2024年)3月31日まで)
公表方法: https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/information/chuukikeikaku-4th.pdf

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: http://www.okinawa-ct.ac.jp/detail.jsp?id=73696&menuid=14565&funcid=1
--

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: http://www.okinawa-ct.ac.jp/detail.jsp?id=73697&menuid=14566&funcid=1
--

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

① 教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 機械システム工学科
教育研究上の目的（公表方法： http://www.okinawa-ct.ac.jp/detail.jsp?id=74685&menuid=14961&funcid=1） （概要） 人材養成上の目的 「モノ」の創造・設計・生産に必要な知識・技術をシステムとして統合した教育研究を行い、地球的視点での「モノづくり」を支える実践力の高い技術者を育成する。 教育目標 1. 自然・人文科学の基礎知識をもとに論理的思考のできる能力 2. 材料・加工学等の要素技術やC A D・C A M・C A E等のコンピュータを使用した生産技術力 3. 各種力学、熱・流体工学等の要素技術や機械製品に関する設計技術力 4. 電気・電子工学、制御・メカトロニクス工学等を用いたシステム化技術力
卒業の認定に関する方針（公表方法： http://www.okinawa-ct.ac.jp/detail.jsp?id=74195&menuid=14890&funcid=1） （概要） ディプロマポリシー 機械システム工学科は、理工系の基礎学力を基礎とする機械工学の専門知識と広く人文社会系の素養を身につけ、創造性・探究心豊かな人材を育成する。本校に在籍し、以下の能力を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定する。 修得する能力： (1)機械工学分野の知識と技術を活用し、課題解決に向けて行動できる能力[本科教育目標：(1)、(2)、(3)] [学科教育目標：1～4] (2)課題の本質を理解し、論理的に思考しようとする能力[本科教育目標：(1)、(3)] [学科教育目標：1、3] (3)他者と協働し、積極的に課題解決に向けて行動できる能力[本科教育目標：(1)、(3)] [学科教育目標：1～4] (4)倫理観・責任感を持って課題に取り組むことのできる能力[本科教育目標：(1)、(4)] [学科教育目標：1] (5)自身の成長のため、自己研鑽できる能力[本科教育目標：(3)、(4)] [学科教育目標：1～4]
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： http://www.okinawa-ct.ac.jp/detail.jsp?id=74195&menuid=14890&funcid=1） （概要） カリキュラムポリシー ディプロマポリシーにて掲げた能力を育成するために、以下の科目群を基本科目として用意する。 (1)自然・人文科学に関する一般科目群：国語、英語、社会科学、数学、自然科学、健康科学など。[本科教育目標：(1)] [学科教育目標：1] (2)機械システムの知識を習得する科目：物理と数学を基礎としたいわゆる四力学（材料力学、流体力学、機械力学、熱力学）と、これらを基盤とした基礎専門科目、および制御工学に関連する基礎科目（電気電子工学、メカトロニクス工学、制御工学など）[本科教育目標：(1)、(3)] [学科教育目標：1、3、4] (3)機械システムの技術を修得する科目：実践的な機械システム工学実験、材料加工システム（工作実習）、設計製図実習、プログラミング演習などの実技科目[本科教育目標：(1)、(3)] [学科教育目標：2、3、4]

(4)課題解決能力を育成する科目：課題の本質を理解し論理的に解決する能力を育成する卒業研究、クラスの他者と協働して課題を解決しようとする能力を育成する創造演習、正しい倫理観を養う技術者倫理など〔本科教育目標：(2)、(4)〕〔学科教育目標：1～4〕 これらの科目群に係る単位修得の認定は主に定期試験により行うが、科目等によってはレポート等の評価結果により評価し、60点以上で単位を認定する。
入 学 者 の 受 入 れ に 関 す る 方 針 （ 公 表 方 法 ： http://www.okinawa-ct.ac.jp/detail.jsp?id=74195&menuid=14890&funcid=1）
（概要） アドミッションポリシー 機械システム工学科では、次のような人材を求める。また、3年次編入学の場合にも以下に準じる。 (1)機械に興味をもち、機械の動く仕組みや構造を理解したいと思う人 (2)機械に関する専門知識と技術を習得し、モノづくりによる社会貢献を志している人 (3)機械工学を学ぶ上で必要な数学、理科、英語などの基礎的な知識を有し、主体的な学修に意欲がある人

学部等名 情報通信システム工学科
教育研究上の目的（公表方法： http://www.okinawa-ct.ac.jp/detail.jsp?id=74685&menuid=14961&funcid=1）
（概要） 人材養成上の目的 環境と技術の調和と社会的責任を考え、産業界の発展に寄与すべく、電気・電子工学と情報通信工学の基本技術を修得させ、情報通信機器などの設計・開発・運用のできる実践的・創造的技術者を育成する。 教育目標 1. 総合科学分野情報通信技術を社会的視点で捉え、多面的に物事を考え、論理的に思考・説明できる能力 2. コンピュータのハードウェアとソフトウェアの基礎知識を備え、通信を含む社会の様々な問題をシステムとして解決できる基本技術力 3. 通信システム設計、通信ネットワーク運用に必要となる通信工学と情報セキュリティなどの基本技術力 4. 情報通信技術の基礎となる電子工学の基礎知識とデジタル及びアナログの集積回路設計の基本技術力
卒 業 の 認 定 に 関 す る 方 針 （ 公 表 方 法 ： http://www.okinawa-ct.ac.jp/detail.jsp?id=74195&menuid=14890&funcid=1）
（概要） ディプロマポリシー 情報通信システム工学科は、理工系の基礎学力を基礎とする情報通信システム工学の専門知識と広く人文社会系の素養を身につけ、創造性・探究心豊かな人材を育成する。本校に在籍し、以下の能力を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定する。 修得する能力： (1)工学の基礎知識を身につけ、それらを応用する能力を身につけている。〔本科教育目標：(1)、(3)〕〔学科教育目標：1～4〕 (2)課題に対し、論理的な思考により、個人またはグループで自主的、計画的に物事を進めて解決を導く能力を身につけている。〔本科教育目標：(2)、(4)〕〔学科教育目標：1〕 (3)論理的な思考力や記述力、発表と討議の能力、コミュニケーション基礎能力を身につけている。〔本科教育目標：(2)、(4)〕〔学科教育目標：1〕 (4)技術者としての倫理観を体得し、グローバルな視点から多面的に物事を捉え先導で

きる能力を身につけている。[本科教育目標：(4)] [学科教育目標：1] (5)実践的・創造的技術者として自立する意識、職業選択を自主的に行える能力、及び社会と産業の発展に果敢に取り組む挑戦的な態度を身につけている。[本科教育目標：(1)～(4)] [学科教育目標：1～4]
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：http://www.okinawa-ct.ac.jp/detail.jsp?id=74195&menuid=14890&funcid=1）
（概要） カリキュラムポリシー ディプロマポリシーにて掲げた能力を育成するために、以下の科目群を基本科目として用意する。 (1)自然・人文科学に関する一般科目群：国語、英語、社会科学、数学、自然科学、健康科学など。[本科教育目標：(1)] [学科教育目標：1] (2)工学の基礎としての数学、物理学、電気・電子工学と情報通信工学の基礎知識を身につけ、それらを応用する科目を配置する。[本科教育目標：(1)、(3)] [学科教育目標：1～4] (3)問題や課題に対して、個人またはグループで自主的、計画的に解決に導き、まとめる能力を身につけるため、実験、演習、実践的科目を体系的に配置する。[本科教育目標：(2)、(4)] [学科教育目標：1] (4)論理的な思考力や記述力、発表と討議の能力と国際的コミュニケーション基礎能力を身につけるため、卒業研究、実験、演習、外国語の科目を配置する。[本科教育目標：(2)、(4)] [学科教育目標：1] (5)技術者倫理に関する科目を配置し、グローバルな視点と様々な社会状況に応じた視点から物事を捉えられるよう配慮する。[本科教育目標：(4)] [学科教育目標：1] (6)実践的・創造的技術者として自立する意識と職業選択を自主的に行える能力を育むよう配慮する。[本科教育目標：(1)～(4)] [学科教育目標：1～4] これらの科目群に係る単位修得の認定は主に定期試験により行うが、科目等によってはレポート等の評価結果により評価し、60点以上で単位を認定する。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：http://www.okinawa-ct.ac.jp/detail.jsp?id=74195&menuid=14890&funcid=1）
（概要） アドミッションポリシー 情報通信システム工学科では、次のような人材を求める。また、3年次編入学の場合にも以下に準じる。 (1)コンピュータ、インターネットなどに興味を持っている人 (2)携帯端末などの新しい電子機器や電子工作に興味のある人 (3)情報や通信の技術を身につけて、社会に貢献したい人

学部等名 メディア情報工学科
教育研究上の目的（公表方法：http://www.okinawa-ct.ac.jp/detail.jsp?id=74685&menuid=14961&funcid=1）
（概要） 人材養成上の目的 数学や自然科学の基礎知識とメディア情報工学の専門的基礎知識をもとにして、産業界の発展に寄与し、社会に貢献できる実践的・創造的技術者を育成する。 教育目標 1. 自然・人文科学の基礎知識をもとに論理的思考のできる能力 2. コンピュータのハードウェア、ソフトウェアの基礎技術を理解し、ネットワーク分野、コンテンツ分野に適用できる能力

3. モバイル通信、ネットワークとセキュリティの基礎技術を理解し、応用するための基本的な能力
4. 種々の情報を加工、表現する技術の基礎を理解し、表現できる能力

卒業の認定に関する方針（公表方法：<http://www.okinawa-ct.ac.jp/detail.jsp?id=74195&menuid=14890&funcid=1>）

（概要）

ディプロマポリシー

メディア情報工学科では、数学や自然科学の基礎知識とメディア情報工学の専門的基礎知識をもとにして、産業界の発展に寄与し、社会に貢献できる実践的・創造的技術者を育成するため、本校に在籍し、以下のような能力を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定する。

修得する能力：

- (1) 自然・人文科学の基礎知識をもとに論理的思考のできる能力。[本科教育目標：(1)] [学科教育目標：1、4]
- (2) コンピュータのソフトウェア、およびハードウェアの基礎技術を理解し、ネットワーク分野、コンテンツ分野に適用できる能力。[本科教育目標：(1)、(3)] [学科教育目標：2、3]
- (3) モバイル通信、ネットワークとセキュリティの基礎技術を理解し、応用するための基本的な能力。[本科教育目標：(1)、(3)] [学科教育目標：2、3]
- (4) 種々の情報を加工、表現する技術の基礎を理解し、表現できる能力。[本科教育目標：(1)、(3)] [学科教育目標：1、4]
- (5) 課題解決能力、知識・理論の応用力などの総合的な能力。[本科教育目標：(1)、(2)、(3)] [学科教育目標：1～4]

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：<http://www.okinawa-ct.ac.jp/detail.jsp?id=74195&menuid=14890&funcid=1>）

（概要）

カリキュラムポリシー

ディプロマポリシーにて掲げた能力を育成するために、以下の科目群を用意している：

- (1) 自然・人文科学に関する一般科目群：国語、英語、社会科学、数学、自然科学、健康科学など。[本科教育目標：(1)] [学科教育目標：1]
- (2) コンピュータのソフトウェア、およびハードウェアの基礎技術に関する専門科目群：プログラミング、アルゴリズムとデータ構造、OSとコンパイラ、デジタル回路、デジタルシステム設計など。[本科教育目標：(1)、(3)] [学科教育目標：2、3]
- (3) ネットワーク、および情報セキュリティの基礎技術に関する専門科目群：通信工学、情報セキュリティ、コンピュータネットワークなど。[本科教育目標：(1)、(3)] [学科教育目標：2、3]
- (4) データや情報の加工・表現のための基礎技術に関する専門科目群：メディアコンテンツ基礎、コンピュータグラフィックスなど。[本科教育目標：(1)、(3)] [学科教育目標：2、3、4]
- (5) 課題解決、知識・理論・アルゴリズムの応用などの総合的な能力を育成するための科目群：各種実験、卒業研究など。[本科教育目標：(2)、(4)] [学科教育目標：1～4]

これらの科目群に係る単位修得の認定は主に定期試験により行うが、科目等によってはレポート等の評価結果によりで評価し、60点以上で単位を認定する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<http://www.okinawa-ct.ac.jp/detail.jsp?id=74195&menuid=14890&funcid=1>）

(概要) アドミッションポリシー メディア情報工学科では、次のような人材を求める。また、3年次編入学の場合にも以下に準じる。 (1) コンピュータの新しい技術に興味を持っている人 (2) コンピュータを使って新しいものをつくり出す意欲のある人 (3) コンピュータを使った技術によって社会に貢献したい人

学部等名 生物資源工学科
教育研究上の目的（公表方法： http://www.okinawa-ct.ac.jp/detail.jsp?id=74685&menuid=14961&funcid=1）
(概要) 人材養成上の目的 環境に配慮し、生物資源の利用に必要な生物化学工学、環境科学、微生物学、食品系工学、バイオテクノロジーの基礎能力と専門技術を身につけ、産業界の要請に対応できる実践的・創造的技術者を育成する。 教育目標 1. 生命科学の基礎となる自然・人文科学の基礎知識を活かし論理的に思考できる能力 2. 地球環境保全の調査・分析に必要な基礎的技術力 3. 微生物学・食品科学の基礎技術を理解し、産業規模で実践できる技術力 4. 生物資源を利用した食品・化粧品などの開発に必要な基礎的技術力
卒業の認定に関する方針（公表方法： http://www.okinawa-ct.ac.jp/detail.jsp?id=74195&menuid=14890&funcid=1）
(概要) ディプロマポリシー 生物資源工学科では、生物資源工学科に所定の期間在学して、設定された単位を習得し、かつ以下の能力を身に付けた者に卒業を認定する。 修得する能力： (1) 亜熱帯域の生物資源に対する生物化学、食品化学、環境学・微生物学に関する基礎知識および専門知識を持ち、生物資源の効用や利用方法を探索できる創造的・実践的な研究・開発の技術力を有する。〔本科教育目標：(1)、(3)〕〔学科教育目標：1～4〕 (2) アジア圏と接近している地理的条件を活かして国際交流をはかり、相手の考えを受け入れると共に自分の考えも主張し、到達点を決め、それに向かって協力していけるチームワーク力やコミュニケーション力を有する。〔本科教育目標：(2)、(4)〕〔学科教育目標：1〕 (3) 習得した専門知識を基礎として、仕事をするために必要な情報は何か、それらをどのように組み合わせれば効率的に仕事が行えるかの思考力を有する。〔本科教育目標：(2)、(4)〕〔学科教育目標：3、4〕 (4) 困難に遭遇した際に、自分の現状を把握し、どこが問題で、どうしたら解決できるのか、どのような助力を求めればよいのかを明確にする論理的思考とそれらを他者へ説明するコミュニケーション力を有する。〔本科教育目標：(2)、(3)、(4)〕〔学科教育目標：1〕 (5) バイオ、化学、環境、医薬・食品系産業などで活躍できる人材であり、社会ニーズに応えることができ、国際性を備えた技術者としての能力を有する。〔本科教育目標：(2)、(3)、(4)〕〔学科教育目標：3、4〕
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： http://www.okinawa-ct.ac.jp/detail.jsp?id=74195&menuid=14890&funcid=1）

(概要) カリキュラムポリシー ディプロマポリシーにて掲げた能力を育成するために、以下の科目群を基本科目として用意している。 (1) 自然・人文科学に関する一般科目群：国語、英語、社会科学、数学、自然科学、健康科学など。〔本科教育目標：(1)〕〔学科教育目標：1〕 (2) 生物工学の基礎科目：情報技術の基礎、基礎科学、応用物理、応用数学、基礎プログラミング、情報技術の応用、有機化学・物理化学、生物分析化学、生物有機化学、生化学、遺伝子工学、生物工学、微生物学、発酵学、環境学、環境分析学、生物資源利用学 I、生理学、食品プロセス工学、食品製造学、化学資格基礎、分子生物学、細胞工学、環境保全学、植物生理学、資源リサイクル学、生物資源利用学 II、タンパク質工学、産業化学など〔本科教育目標：(1)、(3)〕〔学科教育目標：2～4〕 (3) 技術習得に関する科目：実践的な生化学実験、遺伝子工学実験、生物工学実験、微生物学実験、環境学実験、生理学実験、化学および化学実験法など〔本科教育目標：(1)、(3)〕〔学科教育目標：2～4〕 (4) 課題解決能力・コミュニケーション力育成科目：沖縄高専セミナー、創造演習、インターンシップ、産業創造セミナー、バイオテクノロジー基礎実験、創造研究、卒業研究など〔本科教育目標：(1)～(4)〕〔学科教育目標：1～4〕 これらの科目群に係る単位修得の認定は主に定期試験によるものとするが、科目によっては、レポート、発表、報告書等で評価し、60 点以上で単位を認定する。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：http://www.okinawa-ct.ac.jp/detail.jsp?id=74195&menuid=14890&funcid=1）
(概要) アドミッションポリシー 生物資源工学科では、次のような人材を求める。また、3 年次編入学の場合にも以下に準じる。 (1) 生物化学、環境学、微生物学、食品化学に興味があり、探究心の強い人 (2) 自ら学ぶ意欲を持ち、何にでもチャレンジしようという意思のある人 (3) バイオテクノロジー関連の技術者や研究者として社会に貢献したい人
学部等名 創造システム工学専攻
教育研究上の目的（公表方法：http://www.okinawa-ct.ac.jp/detail.jsp?id=74685&menuid=14961&funcid=1）
(概要) 高等専門学校における教育の基礎の上に、精深な程度において工学に関する高度な専門的知識及び技術を教授研究し、豊かな人間性と国際性を持ち、実践性・創造性を兼ね備え複合領域にも対応できる幅広い視野を身につけ、課題設定・解決能力に優れ柔軟な思考ができる高度開発型の技術者を育成する。 教育目標 (1) 知識を融合する能力を持った実践的技術者を育成する (2) 創造力を備え、自ら創造したものを表現できる人材を育成する (3) 専門知識を基にした応用力を持ち、自ら成長できる人材を育成する (4) 地球的視野と倫理観を備え、社会に貢献できる人材を育成する 養成しようとする技術者像 1. 実践性と創造性を兼ね備えた技術者 2. 社会や環境、人類の福祉などを地球的視点から考えられる技術者 3. グローバル化時代に対応する国際性豊かな技術者 4. コミュニケーション能力と統率力を兼ね備えた指導的技術者 5. 新技術・新産業創出を担う高度な専門技術力を持つ研究開発型技術者 6. 地域産業を担う起業家精神旺盛な技術者
卒業の認定に関する方針（公表方法：http://www.okinawa-ct.ac.jp/detail.jsp?id=74195&menuid=14890&funcid=1）

(概要) ディプロマポリシー 専攻科（創造システム工学専攻）では、以下のような能力を身に付け、所定の単位を修得した学生に対し卒業を認定する。 修得する能力： (1) 深い専門知識と幅広い関連分野の知識を持ち、これらを活用する能力を有する。 (2) 論理的に物事を考え、表現できる能力を有する。 (3) 倫理観を持ち、他者と協働できる能力を有する。 (4) グローバルな視点で、多面的に物事を捉える能力を有する。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：http://www.okinawa-ct.ac.jp/detail.jsp?id=74195&menuid=14890&funcid=1）
(概要) カリキュラムポリシー 専攻科（創造システム工学専攻）では、基本科目として以下に対応した科目を設ける。 (1) 専門科目の応用力を身につける。 (2) 知識を融合・複合する力を身につける。 (3) 他者と協働できるコミュニケーション力を身につける。 (4) グローバルな視点で物事を見る力を身につける。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：http://www.okinawa-ct.ac.jp/detail.jsp?id=74195&menuid=14890&funcid=1）
(概要) アドミッションポリシー 専攻科（創造システム工学専攻）では、ディプロマポリシーに基づき、次のような人材を求める。 (1) 技術者として地域社会、国際社会の発展に寄与したいと考えている人 (2) 専門分野に関連する基礎知識、基礎技術を身につけている人 (3) 基礎的な、コミュニケーション能力、倫理観を身につけている人 (4) 新技術、新産業の創出に高い意欲を持つ人 (5) 複合的視野をもち実践的応用能力を身につけることに意欲を持つ人 本校の教育理念に基づき、教育目標に沿った人材を育成するため、以下の3つの方法で入学者選抜を行う。 ・推薦による選抜 本校への入学意思が固く、志望するコースに対する適性や興味・関心の強い志願者（志望動機が適切である志願者）に対し、門を開くために本選抜を実施する。そのため、小論文と面接（アドミッションポリシーに従う質問）により選抜を行う。 ・学力検査による選抜 本校への関心のある志願者に対し、本選抜を実施し、学力検査により選抜を行う。 ・社会人特別選抜 本校で行われている研究・教育活動に興味がある志願者に対し、社会人の経験を活かし、専攻科での見聞を培うため、本選抜を実施する。そのため、面接（アドミッションポリシーに従う質問）及び専門分野における口頭試問により選抜を行う。

② 教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：学校要覧 40-41 ページ

<http://www.okinawa-ct.ac.jp/menuIndex.jsp?id=73702&menuid=14571&funcid=28>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	4 人	－					4 人
機械システム工学科	－	5 人	4 人	2 人	0 人	0 人	11 人
情報通信システム工学科	－	5 人	4 人	0 人	3 人	0 人	12 人
メディア情報工学科	－	3 人	5 人	0 人	2 人	0 人	10 人
生物資源工学科	－	5 人	5 人	0 人	1 人	0 人	11 人
総合科学科 （一般科目担当）	－	3 人	7 人	7 人	1 人	0 人	18 人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0 人		9 人					9 人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法： https://research.kosen-k.go.jp/researcher-list/?page=1&limit=30&districtId=08&affiliationId=6732000000					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
教員全員の授業報告アンケートを利用し、授業改善を行っている。							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関する事

[illegible]

b. 卒業者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
機械システム工 学科	35 人 (100%)	16 人 (45.7%)	16 人 (45.7%)	3 人 (8.6%)
情報通信システ ム工学科	36 人 (100%)	15 人 (41.7%)	21 人 (58.3%)	0 人 (0.0%)
メディア情報工 学科	40 人 (100%)	8 人 (20.0%)	31 人 (77.5%)	1 人 (2.5%)
生物資源工学科	38 人 (100%)	17 人 (44.7%)	15 人 (39.5%)	6 人 (15.8%)
合計	149 人 (100%)	56 人 (37.6%)	83 人 (55.7%)	10 人 (6.7%)
創造システム工学 専攻	29 人 (100%)	6 人 (20.7%)	23 人 (79.3%)	0 人 (0.0%)
合計	29 人 (100%)	6 人 (20.7%)	23 人 (79.3%)	0 人 (0.0%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)
授業計画書は、授業担当者が前年度末までに作成あるいは更新することとしている。授業計画書の作成に当たっては、各授業の到達目標を明記するとともに、ルーブリックによる各項目の到達レベルを詳細に記入することとしている。また、授業内容や授業の進め方を記載し、他の科目との関連等を記載することで、学生が授業概要を事前に把握し、科目間の関連を認識できるようにしている。
授業計画については、週ごとの授業内容・方法を記載するとともに、週ごとの到達目標を明記することで、学生の自学自習を促し、学生自身による到達度の確認を実施できるようにしている。また、評価の割合を試験、レポートなどの項目ごとに示している。
授業計画書は、前年度末までに、Web 上で公表するとともに、授業の第一週に冒頭にお

いて、印刷した授業計画書を配布し、周知している。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要) 各授業の単位は、授業科目における定期試験、中間試験、小テスト、レポート等の成績を合わせて算出された学年末の成績である評価点が 100 点満点で 60 点以上である場合にその取得が認定されることになっている。各授業における評価点の算出方法は、各授業担当者が授業内容等を考慮して決定し、授業計画書に明記されている。 本校における基本的な評価点の算出方法は授業形態により異なり、講義形式の授業科目では、定期試験、中間試験、レポート等を合わせて評価点を算出し、実験・実習形式の授業科目では、レポート、課題作成等を合わせて評価点を算出している場合が多い。卒業研究については、学科ごとに差異はあるが、基本的に、口頭発表内容、卒業論文の完成度並びに普段の取り組み状況を合わせて評価点を算出し、その算出方法については、授業計画書に明記され、また、学生に周知している。 この評価点の算出方法は、授業第一週の冒頭で授業計画書を用いて学生に周知され、以降、理由を問わず、変更されないこととしている。				
学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	G P A 制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
	機械システム工学 科	169 単位		
	情報通信システム 工学科	169 単位		
	メディア情報工学 科	169 単位		
	生物資源工学科	169 単位		
	創造システム工学 専攻	62 単位		
G P A の活用状況 (任意記載事項)		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：学校要覧 28-38 ページ

<http://www.okinawa-ct.ac.jp/menuIndex.jsp?id=73702&menuid=14571&funcid=28>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
	機械システム工 学科	234,600 円	84,600 円	191,370 円～ 225,370 円	(内訳) ・日本スポーツ振興センター共 済掛金 770 円 ・教科書・教材費 24,000～58,000 円 ・ノートパソコン約 130,000 円 ・後援会費 24,000 円 ・寄宿料（寮生のみ）9,600 円 ・入寮費（寮生のみ）3,000 円
	情報通信システ ム工学科				
	メディア情報工 学科				
	生物資源工学科				
	創造システム工 学専攻				

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 経済的な理由により修学が困難な学生に対して、本人の申請により授業料免除制度や奨学金制度の案内を行っている。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) 学生のキャリア形成と進学・就職活動を支援するため、キャリア教育センターを設置している。進路決定のための情報提供や支援のみならず、学生が自己分析・自己理解を進め、インターンシップなどを通して社会やさまざまな職業を理解していくことで、「自分の進路を自分で決定できる能力」を養う教育を行っている。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) 教育福祉推進室を設置し、臨床心理士の資格を持つカウンセラーが、授業期間中の平日に相談員として相談に応じている。相談の結果、学生が自分の問題を自分で解決し学生生活を改善していくことができるよう、学内外の連携を強化し必要な支援の調整にあたっている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法： http://www.okinawa-ct.ac.jp/detail.jsp?id=74697&menuid=14966&funcid=1
--